「愛語」は廻天の力あり

令和元年八月十九日（月）
五泉市　永谷寺（ようこくじ）　吉原　東玄

○　7月初旬、第六教区主催の団参で栃木の大中寺（関三刹）参拝

筑波山老舗旅館「青木屋」へ宿泊

感染性胃腸炎に罹患

人生初救急車乗車　→　筑波大学付属病院へ搬送さる　→　点滴三時間

待合室での出来事

『はい、お迎えに来ました。』

○「修証義　第四章ー発願利生ー」本文中より

「愛語というは、衆生を見るに先ず慈愛の心を発して顧愛の言語を施すなり」

（訳）愛の言葉というのは、人々を見るときに、まっさきに優しさの心を働かせて、その人のことを思って愛の言葉をさしあげることです。

「徳あるは讃むべし、徳なきは憐れむべし」

（訳）人としてのよき徳のある人はたたえるべきです。徳の薄い人には哀れみの心で接します

「愛語能く廻天の力あることを学すべきなり」

（訳）愛の言葉こそ天帝（＝帝釈天）の意思をも変える力があることを知らなければなりません。